

四十決算報告

大正十二年十二月卅一日

負債之部	
資本金	300,000.00
諸積立金	33,000.00
諸預り金	25,000.00
他店ヨリ借	1,000.00
借入金	10,000.00
未納利息及未納過引料	1,000.00
第二所得税	25,000.00
當期純益金	13,000.00
合計	417,000.00
資産之部	
未拂込資本金	100,000.00
諸貸付金	200,000.00
他店へ貸	50,000.00
公債及株券	1,000.00
營業用什器	1,000.00
預け金及現金	33,000.00
合計	417,000.00
利益金勘定	
當期純益金	13,000.00
法定準備金	1,000.00
賞與	7,000.00
配當(年八分)	7,000.00
後期繰越	3,000.00
右之通り候也	
大正十三年一月	

釜屋商店甲子の初賣

最高の努力を捧ぐ！
明けましては目出度ふ御座います
本年も相變らず
平素の御愛顧と御期待に添ふべく
舊一日午前一時より

◆初賣商品は在庫豊富
◆御祝景品は天下無類
一層の用意と準備を致しました
是非お早くとおいで下さい

◆良品廉賣の急先鋒と共に
◆確實敏捷は弊店の生命です
何卒弊店の此確信を
福々大品品の努力を
御買上げ下さいませ

誠心誠意は人道の基調なり
良品は實は商道の極意なり
平町五丁目

奮勵努力の 釜屋商店
電話 三三九番

定額 一部金貳錢 月極 五錢十三字詰
二限リ一ヶ月卅錢 料告廣 一行五十錢
日刊休 日曜 大祭
祝日の翌日
所刷印 福島縣石城郡平町 田町十六番地 磐城新聞社印刷部
發行兼 川崎文治
印刷人



二月四日夕刊

株式 磐城實業銀行

取締役 馬目 太平
専務取締役 鈴木辰三郎
取締役 白井 博之
山崎與三郎
鈴木喜太郎
大平睦四郎
叶多 銚治
同 園田 嘉藏
同 阿部 治作
同 中野 浩忠
同 飯田 一二
同 飯田 一二
監査役 全員任期満了ニ付改選ノ結果園田嘉藏、阿部治作、阿部太平再選就任仕候

土地建物

賣買并二是二關スル萬般ノ御相談ニ應ズ
△床板、床縁
落掛
澤山新荷着
◎大谷石 本場一等
品寸法御望次第
磐城建物
株式會社
平町五丁目
電話五二八番

株式 賣買中値

左記の値段は本日標準値に付御用の節は御問合願候
銘柄 拂込 時價

磐城銀行	五〇〇	五七〇
平銀行	五〇〇	六八〇
磐越銀行	一一五	一〇五
磐城實業	三〇〇	三〇〇
田村實業	一一五	一一五
四倉銀行	一一五	一一五
農工銀行	二〇〇	二六〇
同 新	一五〇	二〇〇
日七銀行	五〇〇	五三〇
同 新	一一五	一四五
七七銀新	一一五	九五
郡山電氣	五〇〇	四〇〇
同 新	二五〇	一八七
只見川電	一一五	六〇
植田水電	一一五	一四五
好間水電	一一五	一三五
磐城製菓	二〇〇	六〇
平信託	五〇〇	四九〇
磐城製業	一一五	一三五
植田物産	三〇〇	二八〇
平製氷	二〇〇	二二〇
好間軌道	五〇〇	三五〇
入山新	三二五	一九〇
小田炭礦	二五〇	一〇〇
磐城炭礦	五〇〇	三九〇
同 新	二二五	一七三
磐城セメント	五〇〇	八七〇
同 新	一七五	三六〇
平運送	一一五	八〇

平町電話三三三番
丸登株式會社
川添房二郎

吉例福引初大賣出し

- 一等 銘仙及外套 拾本
 - 二等 新銘仙又ハ羽織裏 參拾本
 - 三等 女帯地又ハ小供マント 六拾本
 - 四等 紺 染 緋 百本
 - 五等 遠州 綿 貳百四拾本
 - 六等 名入風 呂敷 參百八拾本
 - 七等 足袋風 呂敷 六百八拾本
- 一本もカラクチありません
お買上金高五圓毎に福引券一枚差上げます
福引券をあげない方には特別の景品を澤山差上げます

正月二日開店午前二時
◆吳服券一割引◆
但し一割引商品券は前帳合入金の儀は御断り申候
九圓で拾圓の吳服切手を差上げます
吳服券のた客様にも福引券を差上げます
初賣の商品は極力安く
御祝景品は思ひ切つて有らむ限り差上げます
何卒此確信と努力の苦心をお買上げ下さる様是非お早くと

鹽屋 吳服店
磐城 平町

所行發 福島縣石城郡平町 字長橋町卅五番地 常盤毎日新聞社

解散した清浦

内閣の貢獻
解散前各方面から清浦子に對しての試みた忠告は實に矢の如くであつて貴族院も衆議院も實業界も舉つて子の退隱を穩當としたが遂に聞き入れられず其結果は各種の思想團體の直接行動とまでなつたのであるが是等の忠告の内では清浦子の忠告の内容といふものを聞くに「清浦内閣は其使命たる御慶典を無事に終り政界革新の爲めに政友會が分裂した此使命を果す上は圓満に辭職するを可とす若し解散し全國に階級戦の聲を擧げ

しむるは不可である」といふにあつたが更らに頼つて考へるときは清浦内閣が辭職せずして議會解散といふ非立憲極る暴舉を取つたことは却て日本の憲政の發達を助長するものである、何故なれば此暴舉に對する反動として來るべき總選舉に於ては全國に向つて貴族征伐の聲が擧げられ是れが國論化し遂に貴族院改革元老政治の國策と化する事は彼の普選が國策化したと擇ばぬこととなるからであることに於てか非立憲の極たる貴族内閣の出現も却て其影響と反動によつて日本の

政界に倚與する處のものが少くない即ち
一、清浦内閣の出現は遂に偶然にも政友會の絶對多數を破り一膨大黨の政權壟斷を許さぬ事となつた
二、同内閣の出現と貴族院改革に於てある原動力を作つた
以上の二點は觀察の仕方によつては清浦内閣の憲政に對する二大貢獻であると云ひ得るのである



節分を兒童娛樂日に

福は内鬼は外の文句を改め度い

櫻井磐女校長談

「節分」とは讀んで字の如く季節の分れめであつてつらり節分によつて冬と春とが別れる東洋趣味として誠に優雅な年中行事である。一體徳川時代の教育は非常に人情に 通じてゐた民衆の娛樂として芝居といふものが始めて出来たのも此時代であつて五節の祝ひと定められた元旦、節分、雛祭五月節句、菊の節句等も此頃から一般民衆の間に行はれるやうになつた所が最近こんなつまらぬ事はやめてしまつたらといふやうな事を耳にするが、過去を葬つて新なる希望に生き大なる理想を持つて更に進めとの意味も含めて、戸毎に豆を撒いて厄掃ひをする此節分は年中行事の民衆的娛樂として永久に存在したいと思ふ、更に私の

青年團は非常線係

伊藤署長が座長席に着き

各幹部意見開陳の結果
平町に於ける消防組、火防隊、青年團各幹部の火災時打合せ會は既記の如く昨日午後一時から平署樓上に於て開會伊藤署長座長席に着き出席者一同忌憚なき意見を開陳して協議の結果火災時の任務は是れを類別して一、現場の消火 二、給水係 三、救護係 四、六項である依て現場の消火及び給水係は消防組が主力を傾注し救護係及び家財搬出は火防隊、青年團は非常線警戒に當る事となり夫々分擔事項に關する詳細なる協議に就いては後日適當の機會に擬議する事となつた由

磐中卒業生から 飛行家志望が三名

詩人や藝術家も一名宛 最も多いのは實業方面

磐城中等學校本年度卒業生の志望別は大体既記の如くであるが百五十名の内確定したものは左記の如くである
高等學校二〇 海軍兵學
校五 陸軍士官學校二
高等師範學校六 高等工業學校一六 工科大学豫科二 高等商業學校七
商科大学豫科四 外國語學校二 醫學專門學校四

社告

工場員及び配達係 慰安の爲め舊曆元日から三日間休刊 します
常磐毎日新聞社

今曉菊多座の 樂屋から不審の火

放火の疑あり犯人嚴探中 植田驛ポイント係が発見

今曉午後一時廿分頃植田町劇場菊多座樂屋から發火したるを植田驛ポイント係上遠野宮次郎氏發見直ちに警鐘亂打した爲め消防組出動消火に盡力した結果大事に至らなかつたが放火の疑ある爲め植田署にて犯人嚴探中
以上結婚の基調は性慾であり、更に其の奥底には永遠の生命に對する憧憬が流れて居ることを説いたが、此結婚を衛生學の立場から考察すると、更に種々の研究問題を發見する。第一は結婚の年齢である、國民によつて早熟のものがあり、又風習によつて早婚を好むものもあるが然し最も適當な結婚年齢は其の社會の状況によつて異なるものであつて只に其の能力のみならず、智力才能、位置などが、育兒に適する時期を以て適當な結婚期とせねばならぬ。文明諸國の風潮は人間社會的完成に多大の時を費し、生理的には既に生殖の準備が出来た者でも、社會的には結婚不能者である場合が少くない。結局晩婚の風習が行はれる傾向がある其の極端の場合には生活の獨身生活である。生物學的に考へると是は一種の不自然な生活と云はねばならぬ、文明の生むんだ不幸の一である、第二には體質が結ぶに適當するか否かを判定することである。

眞面目な 性慾問題

眞面目な性慾問題 眞面目な性慾問題 眞面目な性慾問題

不平受付

理想的な圖書館 平町に理想的な圖書館のないのは甚だ遺憾千萬です、幾回か計畫はあつたようですが其後更に音沙汰なく讀書子をして心細からしめて居る事は我町文化發展の上にも惜むべきであります、是非それが設置を望んで止みません (二町民)

△出生 △齋城跡安藤信昭次女祥子 △胡摩澤大河原敏長女延子 △材木町宗像泰壽長男弘文 △婚姻 △北海道札幌市 瀬尾俊三 (二八)五丁目山下喜久術 (二二)

△死亡 △鎌田町 加藤ハルイ △田町 小林金次郎(二つ)

常磐片々

青年團は火災の際非常線警戒に當る事と決定した
平署は團員の指揮監督に忙しく火事の方が留守にならぬか
磐中飛行家志望者三名を出す
時代と共に志望別の變る處に妙味がある

柔剣道送別

磐城中學校柔剣道部に於ては去る二日午後一時から同校に於て選手中の卒業生送別會を開催した因に同校生徒中柔剣道の有段者は左の如くである
(柔道部) 關口考梯 鈴木與一郎 草野又次郎 宇野弘 鈴木繁雄
(劍道部) 片寄七郎 高

山火事二ヶ所 石城郡 箕輪村大字大利字小川崎地 内片寄與四松所有山林から

去る一日午前十時頃發火し約三反歩を焼き同郡磐崎村上湯長谷地内官有林が去月卅一日午後十二時半頃約六町歩焼失して損害二百圓の由